



入試問題研究

今回は2020年度の医学部入試において、現役生と高卒生とで得点差がつきやすい問題を【英語】と【数学】から取り上げました。高卒生はもちろん、現役生もぜひチャレンジしてください。

医学部合格へ *on the road* 東邦大学/国際医療福祉大学・英語

2020年度 東邦大学医学部 入試問題 ④より抜粋

次の各文はEmpathy and Ethicsと題する一つづきの文章の一部である。(1)~(4)の各英文それぞれについて、下線部分に誤りを含んでいるものを①~④の中から一つ選べ。

- (1) The ①role playing by empathy ②in our moral judgements can ③be summarized in the well-known Native American proverb 'Never judge a man ④until you've walked two moons in his moccasins'.
- (2) ①In other words, ②before judgement someone we should first ③try to imagine the situation from ④their point of view.
- (3) However, ①slow judgement ②does not mean no judgement, and ③this is not always true that ④'to know all is to forgive all'.
- (4) Empathy can help us ①not only to make more ②humane judgement ③about other people, but also ④regulating our own behavior.

(紙面の都合で以下省略)

解答

- (1) ① (role playing → role played)
- (2) ② (before judgement → before judging)
- (3) ③ (this is → it is)
- (4) ④ (regulating our own behavior → to regulate our own behavior)

解説

- (1) 日本語訳「私たちが道徳的判断をするとき共感が果たす役割は、有名なネイティブアメリカンの諺『その人の身にならずしてその人を裁くな』に要約される。」(注: moons = months)
roleとplayは受動関係であり、直後のbyからも判断できる。よってplayを過去分詞のplayedにする。
- (2) 日本語訳「言い換えると、誰かを判断する前にまず私たちはその人の視点からその状況を想像しようとするべきである。」
下線部だけを見ていると正しいように見えるが、judgementの後ろにあるsomeoneが浮いてしまっている。そこでjudgementを動名詞judgingにすればsomeoneが目的語となる。
- (3) 日本語訳「しかしながら、時間をかけた判断は全く判断をしないことではない。そして『すべてを知ることにはすべてを許すことである』ということは必ずしもいつも正しいわけではない。」
文脈から判断すると、下線部③のthisが指す内容が見つからない。更に形容詞trueの直後のthat節も意味を成さない。よってthisを仮主語のitに変えれば文脈的にも文法的にも正しい英文となる。

- (4) 日本語訳「私たちが他人に対してより人道的な判断をするだけでなく、私たち自身の行動を規制するのにも共感役立つことがある。」

not only A but also B「AだけでなくBもまた」は基本的な知識なので、英文を書く時にこのAとBは同じ形にする必要があると意識していれば、④のregulatingに違和感を覚えるはずである。help O to do~のto do~の箇所がAとBであることより、regulatingをAにあたるto make~の形に合わせてto regulate~とする。

2020年度 国際医療福祉大学医学部 入試問題 第3問より抜粋

次の英文の段落内の①~④には誤りが一つ含まれている。誤った箇所を含む下線部を、①~④のうちから一つ選べ。

①By the mid-1980s, a new and far more practical approach to medical informatics was becoming possible. The fall in the cost of computing power, a result of the development of the PC by IBM in 1980, meant that theoretical research could now be tested in practice. ②One reason of this was an increase in the number of hospitals and medical practices using computers to keep track of patient records. Electronic patient records offered huge advantages over paper records in terms of saving on storage space, very quick access and relatively easy back-ups. ③In addition, research on illnesses using data from patient records could now be carried out using software to automatically run reports. By the end of the 1980s, ④most hospitals and practices had at least one computer handling patient records.

解答

- ② (One reason → One consequence (result))

解説

下線部①の英文から下線部②の直前の文までが「1980年代中頃までに、医療情報学への新しいはるかに実践的な取り組みが可能になりつつあった。1980年代にIBMによるPC開発の一つの結果である演算能力にかかるコストの低下は、理論的研究を実践で試すことができるようになったことを意味した。」という内容で、下線部②の英文は「この理由の一つは患者の記録を把握するためにコンピュータを使う病院や医院の増加であった。」である。しかし「理論的研究を実践で試すことができるようになった」理由が、「患者の記録を把握するためにコンピュータを使う病院や医院の増加」したからではなく、「理論的研究を実践で試すことができるようになった」結果である。よってreasonをconsequence、またはresultとする。長文中の文脈から、文法的な誤りではなく論理的矛盾を見つける問題である。

講評

センター試験や大学入学共通テストが全体的な理解に重点を置いている一方で、私大医学部入試では細部が多く問われている。特に今回のような「誤り指摘」は細部に関する知識が必要であるため、高卒生に有利と言われてきた。今年度この誤り指摘に2つの変化があった。まずこの形式を出題する大学が、日本医科大、東邦大、国際医療福祉大の3校のみとなった。次にこの3校すべてが長文形式の中で出題した。結果、品詞の識別のような細部を問う問題は残っているが、文脈から判断するものや、英作文でおかしやすい誤りを見つける必要があるものを中心となった。こういった傾向から考えると、現時点で誤り指摘は高卒生に有利な形式だが、今後はそれが変化する可能性がある。従来短文での誤り指摘の出題では、反復演習で正答率を上げやすい傾向があるからだ。今後は、より統合的な力を長文の中で問うような出題形式になるのか、留意する必要があるだろう。

(メディカルラボ 英語科講師 国定 誠)